

令和6年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時等

令和6年6月24日（月曜日）午後1時21分から午後3時16分まで（オンライン開催）
事務局設置場所：健康安全研究センター本館6階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

令和6年5月31日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した12事例について検討を行った。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。

4事例（皮膚症状（全身性）/両下肢の痛み/血液検査値異常/腹痛・胃部不快感、便秘）に関して、都医師会、都薬剤師会へ情報提供し、更なる情報収集について協力を依頼することとなった。

6事例（皮膚症状2/腹痛・胃部不快感3/上腹部不快感・便秘）は、摂取状況・転帰等が不明であるために因果関係が不明であることから、蓄積していくという結論になった。

2事例（下痢/倦怠感・腎機能軽度低下）は、早期に回復したのものや、軽度な症状のものであることから、蓄積していくという結論になった。

また、①基礎疾患のある人（医薬品を服用している人）が健康食品を摂取する際は、利用前に医師・薬剤師等に相談することが大切である、②健康食品を利用して体調不良を感じたら摂取をやめ医療機関を受診することが大切である、③健康食品の個人輸入は、健康被害が報告されているものがあり、海外の注意喚起情報も含め周知することが大切である、との意見があがった。

(2) 事務局からの報告事項

ア 「紅麹を含む健康食品」に係る健康被害事例について

事例の経緯及び都内における製品の回収状況、都内における患者調査の実施状況及び国の対応等についての報告

イ 東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼の実施について

（令和5年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和5年度第2回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした4事例（下痢、体の痒み/皮膚症状/吐気・嘔吐、めまい、軽度な全身症状/上腹部痛、吐気・嘔吐）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼した。

ウ 収集事例の集計結果について

平成 18 年 7 月 1 日から令和 6 年 5 月 31 日までに収集した事例の集計結果は、下表（抄）のとおりである。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抄）

ア 情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	272	191
薬剤師会	252	238
東京都消費生活総合消費者センター※	3	3
合計	527	432

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月 17 日から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	栄養補給	腰痛・関節痛	健康維持・健康増進	病気の改善	美容	便秘	血流改善	血圧改善	美肌	婦人科疾患改善	血糖値改善	肝機能改善	病気の予防	筋肉増強	免疫賦活	強精	バスタップ	その他・不明	年代別患者数
10代	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
20代	22	4	0	1	4	4	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	3	18	60
30代	18	6	0	4	1	7	1	1	0	5	2	0	1	0	0	0	1	0	21	68
40代	20	5	2	6	3	5	2	1	1	1	4	1	0	1	0	0	1	0	21	74
50代	10	27	13	8	2	4	4	1	2	2	1	1	1	2	1	2	0	0	36	117
60代	9	14	20	15	7	1	6	3	4	1	1	0	0	2	2	2	1	0	36	124
70代以上	10	26	49	14	9	3	9	5	5	1	2	6	5	1	2	0	0	0	68	215
不明・記載無し	2	1	0	3	0	1	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	42	55
合計	93	85	84	51	26	25	23	15	12	12	11	9	7	7	5	4	4	3	244	720

・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給、腰痛・関節痛は 50 代以上、健康維持・健康増進は 60 代以上が多い。

・年齢別では、50 代以上の利用が多い。

ウ 性別

性別	患者数(人)	構成比(%)
女性	315	72.9
男性	111	25.7
記載無し	6	1.4
合計	432	100.0

・女性は男性の約3倍であった。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比(%)
あり	263	60.9
なし	107	24.8
不明・記載なし	62	14.4
合計	432	100.0

・医師の診察がない（又は不明）患者が約4割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数(人)	構成比(%)
有り	256	59.3
無し	126	29.2
不明・記載無し	50	11.6
合計	432	100.0

・基礎疾患のある人の事例は約6割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数(人)	構成比(%)
有り	197	77.0
無し	16	6.3
記載無し	43	16.8
合計	256	100.0

(母数：基礎疾患のある256人)

・基礎疾患のある人の約8割が、治療薬と健康食品とを併用していた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	136
胃痛・胃部不快感・吐気	88
下痢・軟便	49
肝機能障害・肝機能検査値異常	48
血液検査異常(肝機能以外)	48
便秘	17
倦怠感	8
出血、出血傾向	7
めまい・ふらつき	7
頭痛	7
下腹部痛、子宮出血	3
その他	61
合計	479

（母数：432人）

・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「下痢・軟便」「肝機能障害・肝機能検査値異常」「血液検査異常(肝機能以外)」であった。

・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものである。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

令和6年7月現在

No.	氏名	所属
1	朝倉 敬子	東邦大学医学部社会医学講座 予防医療学分野 教授
2	梅垣 敬三 (座長)	吉祥寺二葉栄養調理専門職学校 講師
3	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
4	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科(呼吸器) 教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室 室長